

みんなのポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

Bulletin of the National Museum of Ethnology Vol. 4No. 2; Cover, Contents, and others

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009257

1979・6 4_巻2_号

国立民族学博物館 研究報告



サタワル島の数占い——その基本体系について——石森秀三

カヌーをめぐる社会関係——ミクロネシア，サタワル島の社会人類学的調査報告——須藤健一

明治初期・飛騨地方における生産魚類の分布論的研究——秋道智彌

国立民族学博物館所蔵の巻きカゴ細工，とくに国内資料について——中村俊亀智



西アフリカ収集調査行から——小川 了



国立民族学博物館

〒565 大阪府 吹田市 千里 万博記念公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

4 卷 2 号

1979年6月

目 次

サタワル島の数占い	
——その基本体系について——	石 森 秀 三..... 157
カヌーをめぐる社会関係	
——ミクロネシア, サタワル島の社会人類学的調査報告——	須 藤 健 一..... 251
明治初期・飛騨地方における生産魚類の分布論的研究	秋 道 智 彌..... 285
国立民族学博物館所蔵の巻きカゴ細工, とくに国内資料について	
.....	中 村 俊 亀 智..... 340
西アフリカ収集調査行から	小 川 了..... 358
集 報	 371
国立民族学博物館研究報告寄稿要項	 375
国立民族学博物館研究報告執筆要領	 376

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 4 No. 2

June 1979

ISHIMORI, Shuzo	Number Divination on Satawal, Central Caroline Islands.....	151
SUDO, Kenichi	Canoe and Kin in Satawalese Society, Central Caroline Islands.....	251
AKIMICHI, Tomoya	On the Reconstruction of the Distribution and the Human Exploitation of River-Fishes in the Hida Region, Central Japan	285
NAKAMURA, Shunkichi	Coiled Basketry Technique in Japan.....	340
OGAWA, Ryo	Report of the Mission in West Africa on some Ethnographic Objects of Senegal	358

彙 報

(昭和54年1月～
昭和54年3月)

人事異動

2月1日 樺島史明(管理部庶務課人事係長)大阪大学溶接工学研究所共同利用掛長に転任

大江真夫(大阪大学庶務部国際主幹付国際学術掛渉外主任)管理部庶務課人事係長に昇任

2月28日 干井孝之(管理部展示課) 辞職
シンポジウム

「茶の文化」開催

日時 昭和54年1月9日(火)―11日(木)

場所 国立民族学博物館

摘要 文部省科学研究費補助金(総合研究A)による共同研究「茶の文化に関する総合的研究」(研究代表者 守屋 毅)の一環として、標記のシンポジウムが催された。

このシンポジウムは、コーヒーとともに、世界の飲料を二分するに至った「茶」と、その文化的諸現象について、総合的な検討を加えようとするものである。

西南シナに起源する「茶」の利用は、なおその初源の形態を東南アジア・東アジアの一部に残しながら、また各地に独自の「茶の文化」を派生させている。現存する多様な「茶の文化」をめぐる、各分野の研究者がそれぞれ現研究段階における成果を発表するとともに、活発な討論が展開された。

参加者

石毛 直道 国立民族学博物館助教授第3研究部

佐々木高明 国立民族学博物館第2研究部長

守屋 毅 国立民族学博物館助教授第1研究部

熊倉 功夫 筑波大学助教授歴史人類系

角山 栄 和歌山大学教授経済学部
橋本 実 名城大学農学部教授
林 恵一 宮内庁書陵部主任研究官
藤岡 喜愛 愛媛大学教授教養部
村井 康彦 京都女子大学文学部教授
勝尾 清 農林水産省茶業試験場企画連絡室長
斎藤 禎 日本紅茶研究会代表
谷 泰 京都大学助教授人文科学研究所
筒井 紘一 今日庵文庫長
布目 潮風 大阪大学教授教養部
林屋辰三郎 京都国立博物館長
小川 英樹 興誠高校教諭
寺田 孝重 奈良県立茶業試験場所員
中尾 佐助 大阪府立大学農学部教授
松下 智 豊叢会事務局長

日 程

1月9日(座長 佐々木高明――民博)

11:00～12:00

(1) 問題提起

守屋 毅 国立民族学博物館助教授第1研究部

13:00～17:00

(2) 茶の文化の成立

・茶樹の起源

橋本 実 名城大学農学部教授
勝尾 清 農林水産省茶業試験場企画連絡室長

・中国の茶

林 恵一 宮内庁書陵部主任研究官
布目潮風 大阪大学教授教養部

1月10日(座長 守屋 毅――民博)

10:00～12:00

(3) 日本の茶の文化

・日本における茶の普及

村井康彦 京都女子大学文学部教授
林屋辰三郎 京都国立博物館長

13:00～15:30

・茶の湯の芸能

熊倉功夫 筑波大学助教授歴史人類系

筒井紘一 今日庵文庫長

1月11日(座長 石毛直道——民博)

13:00~17:00

(4) 世界の飲みものと茶の文化

・茶とヨーロッパの食事文化史

角山 栄 和歌山大学教授経済学部

斎藤 禎 日本紅茶研究会代表

・飲みものとナルコテックス

藤岡喜愛 愛媛大学教授教養部

谷 泰 京都大学助教授人文科学
研究所

(5) 総括

「わが国における中東地域研究に関する現状
と展望」開催

日時 昭和54年3月19日(月)~20日(火)

場所 国立民族学博物館

摘要 わが国の中東地域の研究者15名による
シンポジウムが本館において開催された。
梅棹忠夫館長の基調講演の後、中東地域
研究各分野の発表、討論が行なわれ、テ
ーマはわが国における中東研究史から始
まって多岐に及んだ。

参加者

梅棹 忠夫	国立民族学博物館長
板垣 雄三	東京大学助教授教養学部
中岡 三益	アジア経済研究所調査役
加賀谷 寛	大阪外国語大学教授
大岩川和正	明治大学教授
石田 進	中東経済研究所主任研究員
三木 亘	東京外国語大学助教授
岡崎 正孝	大阪外国語大学助教授
永田 雄三	東京外国語大学助教授
池田 修	大阪外国語大学助教授
奴田原睦明	東京外国語大学講師
片倉 邦雄	国際交流基金総務部長
藤井 知昭	国立民族学博物館助教授第 2 研究部
松原 正毅	国立民族学博物館助教授第 2 研究部
杉村 棟	国立民族学博物館助教授第 2 研究部

日 程

3月19日

10:00~10:30

基調講演「日本と中東」

梅棹忠夫(研究代表者)国立民族学博
物館長

10:30~12:00

わが国における中東研究史

(1) 1930年代のイスラム研究

板垣雄三 東京大学助教授教養学部

(2) 第2次大戦後のイスラム研究

加賀谷寛 大阪外国語大学教授インド
パキスタン語学科

(3) 1973年オイルショック前後の中東
研究

池田 修 大阪外国語大学助教授アラ
ビア語学科

14:00~17:00

わが国における中東研究機関、団体の歴
史と活動状況

(1) 外務省(中東専門家の養成及び中
東との文化交流)

片倉邦雄 国際交流基金総務部長

(2) 中東調査会

(3) 日本オリент学会

(4) アジア経済研究所

(5) 日本アラブ関係国際共同研究

中岡三益 アジア経済研究所調査役

(6) 東京外国語大学アジア・アフリカ
言語文化研究所

三木 亘 東京外国語大学助教授 A A
研

(7) 中東経済研究所

(8) 中東協力センター

石田 進 中東経済研究所主任研究員

(9) 国立民族学博物館

藤井知昭 国立民族学博物館助教授

(10) 中近東文化センター

杉村 棟 国立民族学博物館助教授

(11) 大学関係 (12) 東洋文庫

板垣雄三 東京大学助教授教養学部

彙 報

(13) 内陸アジア研究所
岡崎正孝 大阪外国語大学助教授外国
語学部

(14) 若手研究グループ

研究分担者全員

機関及び分野別 検討と整理

3月20日

10:00~12:00

(1) 中東諸国との研究交流上の問題点
三木 亘 東京外国語大学助教授A A
研

(2) 教育研修の問題点
池田 修 大阪外国語大学助教授外国
語学部

(3) 地域研究における中東の問題点
板垣雄三 東京大学教養学部助教授
討 論

13:00~18:00

(4) イラン研究の現状と問題点
加賀谷寛 大阪外国語大学教授外国語
学部

(5) トルコ研究の現状と問題点
永田雄三 東京外国語大学助教授A A
研

(6) イスラエル研究の現状と問題点
大岩川和正 明治大学文学部教授

(7) アラブ研究の現状と問題点

中岡三益 アジア経済研究所調査役

討 論

(8) 欧米諸国における中東研究

杉村 棟 国立民族学博物館助教授

(9) 経済社会調査の問題点

石田 進 中東経済研究所主任研究員

(10) 言語文学に関する問題点

奴田原睦明 東京外国語大学講師外国
語学部

(11) 民族文化研究の問題点

藤井知昭 国立民族学博物館助教授

討 論

19:00~21:00

中東研究の組織化のための将来像（自由
討論）

全 員

館内合同研究会

1月31日 「韓国同姓村落について」
金 宅圭

2月14日 「Canadian Eskimo Art and
Acculturative process」
Dr. グラバーン

3月14日 「樺太アイヌの病気に関する考
え方——象徴的考え方」
大貫恵美子

海外における研究・調査・収集活動

氏 名	所属・官職	出 発	帰 国	行 先
吉本 忍	助手（第2研究部）	54. 2. 23	54. 5. 3	インドネシア
藤井 知昭	助教授（第2研究部）	54. 2. 26	54. 3. 7	インドネシア
櫻井 哲男	助手（第5研究部）	54. 3. 20	54. 4. 18	インドネシア
大給 近達	教授（第4研究部）	54. 3. 21	54. 3. 30	ブラジル, ボリビア, ペルー
石毛 直道	助教授（第5研究部）	54. 3. 25	54. 4. 18	チュニジア, モロッコ
藤井 知昭	助教授（第2研究部）	54. 3. 25	54. 4. 18	チュニジア, モロッコ

来館者抄

- 1月19日 王秋土（中華民国国立故宫博物院展覽組組長）
 蕭子權（同 技師）
 梅溪 昇（大阪大学教授）
- 21日 北京放送局訪日代表团
 （团长 葛雨笠 北京放送局報道部主任 以下11名）
- 2月9日 H. J. ダインヴァルナー（大阪ドイツ文化センター館長）
 U. ウッツ＝ドルダ（大阪ドイツ文化センター）
 遠藤汪吉（追手門学院大学長）
- 21日 根井康雄（九州芸術工科大学教授）
- 22日 Dieter OERTEL
 (Bibliotheksreferat,
 Deutsche Forschungs-
 gemeinschaft)
- 26日 Emilio ROSENBLUETH（メキシコ国教育庁企画担当次官）
- 3月2日 Kraiyudht DHIRATAYAKINANT
 （チュラロンコン大学，経済学）
 M. R. Akin RABIBHADANA
 （タマサート大学準教授，人類学）

- Amphon NAMATRA（チュラロンコン大学助教授，政治学）
- Titaya SUVANAJATA（N I D A 準教授，社会学）
- Saisuree CHUTIKUL（チュラロンコン大学講師，Oral Tradition）
- Nidhi AEUSRIVONGSE（チェンマイ大学，歴史学）
- Wichit SRISA-an（タイ国大学庁次官補，高等教育）
- Choompol SWASDIYAKORN
 （タイ国立学術研究会議）
- Vibool PHINIT-Akson（タイ国大学庁海外関係部長）
- 16日 柏 祐賢（京都産業大学長）
- 17日 アンソニー・H. ファラポ（パプア・ニューギニア大使）
- 22日 Mario Vargas LLOSA（国際ペンクラブ会長）
- 26日 Antonio G. FERRI（サンパウロ大学人文学部長）
 William H. NEWELL (Dept.
 of Anthropology, University
 of Sydney)

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認めた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のシミ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当たっては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万国博記念公園
国立民族学博物館内
国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

〔柳田 1942: 67-69〕
〔Leach 1961: 123〕
〔柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123〕

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

〔柳田 1942a: 20-22〕〔柳田 1942b: 10〕
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
 - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
 - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』 13(4): 311-330。

Bohannan, P.

1973 *Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist.* Current Anthropology 14(4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」 柳田国男編『日本民俗学研究』 岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

- 1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse.
In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language,
The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

- 1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

- 1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

- 1974 『シャーマニズム——古代のエクスタシー技術——』 堀 一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

- 1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 4 卷 2 号

審査委員

梅 棹 忠 夫
中 根 千 枝

祖 父 江 孝 男

編集委員

江 口 一 久
竹 村 卓 二
友 枝 啓 泰
藤 井 龍 彦

加 藤 九 祚 (編集委員長)
垂 水 稔
中 村 俊 亀 智

昭和 54 年 10 月 19 日 印 刷
昭和 54 年 10 月 25 日 発 行

非 売 品

国立民族学博物館研究報告 4 卷 2 号

編集・発行 国立民族学博物館

〒565 吹田市山田小川 41-1
TEL 06 (876) 2151 (代表)

印 刷 中西印刷株式会社

〒602 京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075 (441) 3155 (代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.4 no.2
June 1979

ISHIMORI, Shuzo

SUDO, Kenichi

AKIMICHI, Tomoya

NAKAMURA, Shunkichi
OGAWA, Ryo

Number Divination on Satawal, Central
Caroline Islands

Canoe and Kin in Satawalese Society,
Central Caroline Islands

On the Reconstruction of the Distribu-
tion and the Human Exploitation of
River-Fishes in the Hida Region, Central
Japan

Coiled Basketry Technique in Japan
Report of the Mission in West Africa
on some Ethnographic Objects of
Senegal



National Museum
of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X